

文科省の阿蘇企画官が資料6-2(NASA 予算)を5分強で説明した後、5分強の質疑応答があった。(財政赤字解消が重要課題の中で、国防予算を除く裁量的経費の増加率 0.3%と云う厳しい状況が背景にある。そんな中で宇宙予算は 1.8%増が認められた。内訳では、探査予算が 11.4%増で、宇宙科学と宇宙運用(ISS/シャトル関係)はほぼ同規模であった。またシャトルは2010年に退役、次期有人宇宙機 Orion と Ares は2015年初期運用開始が計画されている。)

青江: Orion と Ares 、2015年3月までに完成すると云う事、これはほんの僅かだけど、一寸遅れ?

文科省 阿蘇: そうですね。此方に括弧書きで書いてあるんですが、去年の予算案では Orion の運用開始は2014年度以前、それから大統領ビジョンを具体化する為に、2005年に発表した計画では2012年と云う形で報告されていました。それで、具体的な遅延の理由って云うのは示されて無いんですけれども、恐らく予算によるもので、

青江: 単に予算によるものなのかどうなのか、その辺をもう少しキチンと調べといってくれと良いネエと

文科省 阿蘇: ああ、済みません。

青江: それから COTS、1億7千3百万、これは増えたんですって。ステーションを支援する商業的輸送能力開発、1億7300万ドル。これは増えたんですって、どうでしたっけ。此の数字は?

文科省 阿蘇: 済みません、かなりブレイクダウンした

青江: この辺の数字がどうなってるのかって云う事とですね、それから所謂これが COTS の為のお金ですけどね、此れの今の状況と言いますかですね、1社の方はもうウイズドロートとか、それからあんまり上手く行ってないとか、色々伝えられてる訳ですね。

文科省 阿蘇: そうですね。状況

青江: 其の辺り、まあ、あのー、其処はどんな状況、全般的にあるのか、此れもキチンと調べて頂けるとありがたいネエと。

文科省 阿蘇: 其れで状況なんですけれども、此れまでスペース X 社と、ロケットプレーン・キスラー社と2社契約して居った処なんですけど、2007年の10月、昨年10月にですね、此の内のロケットプレーン・キスラー社の方が、未だ中間的な目標を達成しなかったと云う事で、

青江: だからプレーン社の方がウイズドロートしたんでしょ。

文科省 阿蘇: はい、契約打ち切りになって、今回の予算調書の説明では、今年の3月迄に新しいパートナー1つか若しくは其れ以上のパートナーを決めたいと、3月迄に決めたいと云う事を発表して居ります。

青江: あのー、これはもう、気分の問題なのかどうか良く分らないんですけどね、デール長官の「ステーションに於けるパートナーとのコミットメントを尊重するという統一されたビジョンを作成した。」と云う、大変持って回った言い方をしてるんですよね。何か意味あるんですかネエ。コミットメントを単に尊重すると、ちゃんとやる事だけはちゃんとやるよと言って切ったきゃ良いものを、何か後ろに何か、こう、変なもんが付

いてんだけど、何か意味が有るんですかネエ。

文科省 阿蘇: 済みません、単に訳し方の問題かも知れません。

松尾: 後は何かありますか。

池上: 勿論これは予算要求ですからどうなるか分からないんですけど、大きいのはやっぱりサイエンスが減ったって云う事ですよネエ。

文科省 阿蘇: ええとですね、サイエンスが減ったと言うよりも、一番大きいのが太陽物理学、3頁ご覧頂きたいんですけども、太陽物理学に計上されて居たネットワークの予算なんですけれども、此れ、2006年には夫々所管替えをされていて、2009年度に権限と共に予算の方も宇宙運用の宇宙飛行支援と云う処に移管したと云う結果になって居ります。

池上: と云う事は、サイエンスは実質は減ってないと云う事?

文科省 阿蘇: ほぼ同額、260ミリオンが移管されてますので、ほぼ同額ですけども、天体物理学の方は此れまで10個のプログラムを5つに取り纏めたと云う事で減額になって居ります。

池上: サイエンスのグループが非常に不満を述べてるって云う話ですが、こう云う様な状況

青江: 要は減ったって云う事ですね。どうも説明が良く分かんない。

文科省 阿蘇: あのー、此方、地球科学と惑星科学の方は増えて居りますけれども、天体物理学の方で減って居りまして。

青江: だからトントンで良いんだ。

文科省 阿蘇: トントンです、はい。

松尾: 宜しゅう御座いますか。要するに此れで見ると、探査シフトってのは変わってないと、ミッションとして残ってるのも、サイアツ(?)と二つだけになっちゃって、まあ、ステーションはありますけれども、その状況、変って無い様であります。宜しゅう御座いますか、それでは3番目の議題に。